

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	立地条件から地域の方との関係作りは難しく地域との交流が殆どない状態である、出来ている事は散歩などをするぐらいに止まっている。	少しでも地域交流が出来る事は何かを考えた上で近隣の方とも交流が深められるようにし、やすらぎ祭りなどにも参加してもらえるようにし、消防などの災害時も手伝ってもらえるようにする。	近隣のコミュニティセンターに行き少しでも地域で参加が出来るような事があれば積極的に参加し入居者様が出来なければ職員から参加し、地域のゴミ拾いなどの奉仕活動にも参加する、また、文化祭などの行事があれば施設で作った物を展示させてもらうようにお声をかけ連携をとり少しでも地域とつきあいが出来る環境づくりを行う	6カ月
2	5	身体拘束委員会は立ち上げており毎月の委員会で身体拘束廃止を検討し議事録や毎日の状態報告の記録や指針等はあるが年2回の研修が取組めていない為早急に取り組む	年2回の研修を必ず取り入れ、身体拘束廃止に向けて引き続き委員会などで話し合いをし、廃止も大切だけど入居者様の安全を確保できるように廃止に向けて取り組む。	年2回3月と9月に身体拘束の研修を取り入れ、職員全委員が身体拘束について何で駄目なのかはもちろん、利用者の尊厳を重視し日常生活が利用者様にとって生き生きと過ごされるような環境作りをして行く。 また、新しく入社した職員には必ず身体拘束の指針を読んでもらい理解してもらうようにする。	1カ月
3	13	火災時の避難訓練は年2回取り組んでおり、1回の消防署立会の元避難訓練を取り組んではあるが、地震や災害時の避難計画書はあるが職員や利用者様が全員が把握できていないのが現状である	利用者様や職員が全員が避難経路の把握と災害時どうしたらいいかを明確にし緊急時に備えておく。	火災時は今まで通りに年2回行い避難訓練を行い、1回は消防署立会の元実施する。 地震時の災害は取り合えず全入居者の安否確認を避難が必要なら指定の避難所に行けるように利用者様と職員が把握し必要な物を持って避難する。 水害時はハザーザッドマップからは避難の対象外にはなっているがもしもの場合は避難するように心掛けておく。	2カ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
評価結果の通知を受けた日から概ね2週間から30日以内に作成し、市町と評価機関に提出してください。(提出必須)